

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	経営戦略研究科後期課程
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部) コースワークとリサーチワークのバランス(院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学生課程教育に相応しい教育内容の提供(学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容(学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院)

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 授業科目の見直し(内部評価)や改善方法の検討を行う	→研究科所属教員による、理論と実務の融合に関する教育課程内容に関する意見交換会の実施回数	B	B	B	A	A
2. 教育内容の詳細について、内部評価のための会合を開催する、また、シラバス等の詳細を教員間で共有する	→FDのための意見交換開催回数	B	B	B	B	A

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 授業科目を見直し、博士課程開講科目である「先端マネジメント特殊研究」の科目数を増やして多様な教育内容を提供することとした。各分野毎に複数クラスを開講し、研究指導と合わせて履修が可能となっている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 授業科目を見直したことで充実したが、それらの検討は研究科委員会(教授会)で行われている。意見交換会という形式ではないが、実質的に授業科目について議論できているため十分な回数が取られていると考える。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も授業科目については研究科委員会(教授会)で検討する。	☆
		その他	☆

目標2	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2011年度には、外部講師による研究科委員へのFD研修会が開催され、講師とともに教育内容等についての意見交換会が行われた。また、2014年3月には博士後期課程の教育方法のあり方について意見交換が行われた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 教育内容について、FDのための意見交換会は年1回程度の開催に留まる。しかし、各学期初めには全学生の研究進捗状況及び、履修科目を教員間で共有している。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も積極的な意見交換を行うため、定期的にFD研修会を開催する。また、月次の研究科委員会(教授会)においても必要に応じて議論する。	☆
		その他	☆
備考			☆